

【 26 】

氏名	鎌 田 常 子
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1452 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和59年 3 月31日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	妊娠中及び分娩周辺期における index-F, index- Δ^4 P の推移 について
論 文 審 査 委 員	教授 産賀敏彦 教授 木本 浩 教授 太田善介

学位論文内容の要旨

正常妊婦の妊娠中及び分娩周辺期における corticosterid-binding globulin(CBG)cortisol(F) progesterone(Δ^4 P) 及びF, Δ^4 Pの CBG 非結合率を測定し, F, Δ^4 P の活性の指標として index-F, index- Δ^4 P(total F or Δ^4 P \times CBG 非結合率 \div 100)を算出して, その推移を検討した。index-Fは妊娠中漸増し, 妊娠末期に非妊時の1.5倍になった。これは total F の $\frac{1}{2}$ の増加率であった。分娩周辺期では index-F は分娩まで一定で, 分娩時にストレスによると考えられる急増を示したが, その増加率は total F と同程度であった。臍帯静脈の index-F は分娩前母体より高値であり, 児の成熟にとって合目的と考えられた。index- Δ^4 P は妊娠末期に初期の4.5倍で, total Δ^4 P と同程度の増加率となり, 妊娠維持に合目的と考えられた。分娩周辺期には total Δ^4 P, index- Δ^4 Pともほとんど一定で, 陣痛発来との関係を見い出せなかった。臍帯静脈では, total Δ^4 P, index- Δ^4 Pとも非常に高値となった。

論文審査の結果の要旨

本研究は妊娠および分娩に伴うステロイドホルモンの血中濃度の変動に関する研究であるが, コルチコステロイド結合グロブリンに結合していないコルチゾールおよびプロゲステロンの濃度の推移の生理的意義について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって, 本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める